



I コマンド

この章では、I で始まる Cisco NX-OS レイヤ 3 インターフェイス コマンドについて説明します。

ip address

インターフェイスのプライマリまたはセカンダリ IP アドレスを設定するには、**ip address** コマンドを使用します。IP アドレスを削除するか、IP プロセッシングをディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip address *ip-address mask* [**secondary**]

no ip address *ip-address mask* [**secondary**]

構文の説明

<i>ip-address</i>	<i>A.B.C.D</i> または <i>A.B.C.D/length</i> の形式の IPv4 アドレス。
<i>mask</i>	関連する IP サブネットのマスク。
secondary	(任意) 設定されたアドレスをセカンダリ IP アドレスに指定します。このキーワードが省略された場合、設定されたアドレスはプライマリ IP アドレスになります。

コマンドデフォルト

IP アドレスはインターフェイスに定義されません。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード
サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン



(注)

このコマンドを使用する前に、レイヤ 3 機能を使用するためにインターフェイス上で **no switchport** コマンドを使用していることを確認してください。

インターフェイスには、1 つのプライマリ IP アドレスと 1 つのセカンダリ IP アドレスを割り当てることができます。

no ip address コマンドを使用して IP アドレスを削除することにより、特定のインターフェイス上の IP プロセッシングをディセーブルにできます。

オプションの **secondary** キーワードを使用すると、セカンダリ IP アドレスを指定できます。システムがセカンダリの送信元アドレスのルーティングの更新以外にデータグラムを生成しないというのを除けば、セカンダリ アドレスはプライマリ アドレスのように処理されます。IP ブロードキャストおよびアドレス解決プロトコル (ARP) 要求は、IP ルーティング テーブル内のインターフェイス ルートのよう処理されます。



(注)

Open Shortest Path First (OSPF) アルゴリズムを使用してルーティングする場合は、インターフェイスのセカンダリ アドレスがプライマリ アドレスと同じ OSPF エリアにあることを確認してください。

例

次に、イーサネット インターフェイス 1/5 のプライマリ アドレスとして IP アドレス 192.168.0.27 を、セカンダリ アドレスとして 192.168.0.5 を設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip address 192.168.0.27 255.255.255.0
switch(config-if)# ip address 192.168.0.5 255.255.255.0 secondary
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	コンフィギュレーションの変更をスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
no switchport	レイヤ 3 設定のインターフェイスをイネーブルにします。
show ip interface	IPv4 に設定されたインターフェイスを表示します。

ip arp

スタティック ARP エントリを設定するには、**ip arp** コマンドを使用します。スタティック ARP エントリを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip arp ip-address mac-address

no ip arp ip-address

構文の説明

<i>ip-address</i>	A.B.C.D の形式の IPv4 アドレス。
<i>mac-address</i>	次の形式の MAC アドレス : <ul style="list-style-type: none"> • E.E.E • EE-EE-EE-EE-EE-EE • EE:EE:EE:EE:EE:EE • EEEE.EEEE.EEEE

コマンドデフォルト

なし

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード
サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドは、レイヤ 3 インターフェイスおよびレイヤ 3 サブインターフェイス上で使用します。

例

次に、インターフェイス イーサネット 1/2 上でスタティック ARP エントリを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip arp 192.0.2.1 0150.5a03.efab
switch(config-if)#
```

次に、サブインターフェイス上でスタティック ARP エントリを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# interface ethernet 1/1.1
switch(config-subif)# ip arp 192.0.2.1 0150.5a03.efab
switch(config-subif)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
<code>show ip arp</code>	ARP エントリを表示します。

ip arp gratuitous

無償 ARP をイネーブルにするには、**ip arp gratuitous** コマンドを使用します。無償 ARP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
ip arp gratuitous {request | update}
```

```
no ip arp gratuitous {request | update}
```

構文の説明

request	アドレス重複検出時の無償 ARP 要求の送信をイネーブルにします。
update	無償 ARP 用の ARP キャッシュのアップデートをイネーブルにします。

コマンドデフォルト

イネーブル

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

インターフェイス Ethernet 2/1 上の gratuitous ARP 要求をディセーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip arp gratuitous
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip arp	スタティック ARP エントリを設定します。
show ip arp	ARP 設定情報を表示します。

ip arp timeout

アドレス解決プロトコル (ARP) のタイムアウトを設定するには、**ip arp timeout** コマンドを使用します。デフォルト値に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip arp timeout *timeout-value*

no ip arp timeout

構文の説明	<i>timeout-value</i>	ARP キャッシュ内にエントリを残す時間 (秒単位)。有効な値は 60 ~ 28800 で、デフォルトは 1500 です。
-------	----------------------	---

コマンド デフォルト 1500 秒

コマンド モード グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴	リリース	変更内容
	5.0(2)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例 次に、ARP タイムアウト値を 120 秒に設定する例を示します。

```
switch(config)# ip arp timeout 120
switch(config)#
```

次に、ARP タイムアウト値をデフォルトの 1500 秒に戻す例を示します。

```
switch(config)# no ip arp timeout
switch(config)#
```

関連コマンド	コマンド	説明
	show running-config arp all	デフォルト設定を含む ARP 設定を表示します。

ip directed-broadcast

ダイレクトブロードキャストから物理ブロードキャストへの変換をイネーブルにするには、**ip directed-broadcast** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip directed-broadcast

no ip directed-broadcast

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル。すべての IP ダイレクトブロードキャストが破棄されます。

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード
サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

IP ダイレクトブロードキャストは、宛先アドレスが何らかの IP サブネットの有効なブロードキャストアドレスであるにもかかわらず、その宛先サブネットに含まれないノードから発信される IP パケットです。

宛先サブネットに直接接続されていないデバイスは、そのサブネット上のホストを宛先とするユニキャスト IP パケットを転送する場合と同じ方法で IP ダイレクトブロードキャストを転送します。ダイレクトブロードキャストパケットが、宛先サブネットに直接接続されたデバイスに到着すると、そのパケットはその宛先サブネット上でブロードキャストされます。パケットの IP ヘッダー内の宛先アドレスはそのサブネットに設定された IP ブロードキャストアドレスに書き換えられ、パケットはリンク層ブロードキャストとして送信されます。

あるインターフェイスでダイレクトブロードキャストがイネーブルになっている場合、着信した IP パケットが、そのアドレスに基づいて、そのインターフェイスが接続されているサブネットを対象とするダイレクトブロードキャストとして識別されると、そのパケットはそのサブネット上でブロードキャストされます。

no ip directed-broadcast コマンドがインターフェイスに対して設定されている場合は、そのインターフェイスが接続されたサブネット行きのダイレクトブロードキャストが展開されずに破棄されます。



(注)

ダイレクトブロードキャストの中でも特にインターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) ダイレクトブロードキャストは、悪意のある人物によって不正使用されたことがあるため、ダイレクトブロードキャストを必要としないインターフェイス上では **ip directed-broadcast** コマンドをディセーブルにすることを推奨します。また、アクセスリストを使用してブロードキャストパケットの数を制限することも推奨します。

例

次に、イーサネット インターフェイス 2/1 上で IP ダイレクト ブロードキャストの転送をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip directed-broadcast
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip interface	インターフェイスの IP 情報を表示します。

interface ethernet (レイヤ 3)

レイヤ 3 イーサネット IEEE 802.3 ルーテッド インターフェイスを設定するには、**interface ethernet** コマンドを使用します。

interface ethernet [*chassis_ID*]/ *slot*/*port*[.*subintf-port-no*]

構文の説明

<i>chassis_ID</i>	(任意) ファブリック エクステンダ シャーシ ID を指定します。シャーシ ID の範囲は、100 ~ 199 です。 (注) Cisco Nexus 2000 シリーズ ファブリック エクステンダ のホスト インターフェイスをアドレッシングする場合は、この引数は任意ではありません。
<i>slot</i>	1 ~ 3 のスロット。次のリストに使用可能なスロットを定義します。 <ul style="list-style-type: none"> スロット 1 にはすべての固定ポートが含まれます。ファブリック エクステンダにのみ、1 つのスロットが含まれます。 スロット 2 には上位拡張モジュールのポートが含まれます (実装されている場合)。 スロット 3 には下位拡張モジュールのポートが含まれます (実装されている場合)。
<i>port</i>	特定のスロット内のポート番号を指定します。指定できるポート番号は 1 ~ 128 です。
.	(任意) サブインターフェイスの区切り文字を指定します。
<i>subintf-port-no</i>	(任意) サブインターフェイスのポート番号。有効な範囲は 1 ~ 48 です。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード
 インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

インターフェイスをレイヤ 3 ルーテッド インターフェイスとして設定するためには、**no switchport** コマンドをインターフェイス コンフィギュレーション モードで使用する必要があります。インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスとして設定すると、そのインターフェイスのすべてのレイヤ 2 固有のコンフィギュレーションが削除されます。

レイヤ 3 インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスに変換するには、**switchport** コマンドを使用します。インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスとして設定すると、このインターフェイスのすべてのレイヤ 3 固有のコンフィギュレーションが削除されます。

例

次に、レイヤ 3 イーサネット インターフェイス 1/5 でコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-if)#
```

次に、ファブリック エクステンダのホスト インターフェイスでコンフィギュレーション モードを開始する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 101/1/1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-if)#
```

次に、グローバル コンフィギュレーション モードでイーサネット インターフェイス 1/5 のレイヤ 3 サブインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5.2
switch(config-if)# no switchport
switch(config-subif)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-subif)#
```

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードでレイヤ 3 サブインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# interface ethernet 1/5.1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-subif)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-subif)#
```

次に、レイヤ 3 インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスに変換する例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-if)# switchport
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
bandwidth	インターフェイスの帯域幅パラメータを設定します。
delay	インターフェイス スループット遅延値を設定します。
encapsulation	インターフェイスのカプセル化タイプを設定します。
ip address	インターフェイスのプライマリまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
inherit	インターフェイスにポート プロファイルを割り当てます。
interface vethernet	仮想イーサネット インターフェイスを設定します。
no switchport	インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスとして設定します。
service-policy	インターフェイスのサービス ポリシーを設定します。
show fex	スイッチに接続されている、すべての設定済みのファブリック エクステンダ シャーシを表示します。
show interface ethernet	イーサネット IEEE 802.3 インターフェイスの各種パラメータを表示します。

ip local-proxy-arp

ローカル プロキシ アドレス解決プロトコル (ARP) 機能をイネーブルにするには、**ip local-proxy-arp** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip local-proxy-arp

no ip local-proxy-arp

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンド デフォルト

ディセーブル

コマンド モード

インターフェイス コンフィギュレーション モード
サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

ローカル プロキシ ARP 機能を使用するには、その前に **ip proxy-arp** コマンドを使用して IP プロキシ ARP 機能をイネーブルにする必要があります。IP プロキシ ARP 機能は、デフォルトではディセーブルです。



(注)

このコマンドは、レイヤ 3 ループバック インターフェイスには使用できません。

例

次に、ローカル プロキシ ARP をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 1/5
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip arp local-proxy-arp
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
ip proxy-arp	インターフェイス上でプロキシ ARP をイネーブルにします。
show ip arp	ARP 設定情報を表示します。

interface loopback

ループバック インターフェイスを作成して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface loopback** コマンドを使用します。ループバック インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

interface loopback *number*

no interface loopback *number*

構文の説明

<i>number</i>	インターフェイス番号。有効な値は 0 ~ 1023 です。
---------------	-------------------------------

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

interface loopback コマンドは、ループバック インターフェイスを作成または変更するために使用します。

ループバック インターフェイス コンフィギュレーション モードからは、次のパラメータを使用できません。

- **description** : インターフェイスの目的を説明します。
- **ip** : インターフェイスの IP アドレス、アドレス解決プロトコル (ARP) 属性、ロード バランシング、ユニキャスト リバース パス転送 (RPF)、IP ソース ガードなどの IP 機能を設定します。
- **logging** : イベントのロギングを設定します。
- **shutdown** : インターフェイスでトラフィックをシャットダウンします。

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、ループバック インターフェイスを作成する例を示します。

```
switch(config)# interface loopback 50
switch(config-if)# ip address 10.1.1.1/24
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show interface loopback	指定されたループバック インターフェイスのトラフィックに関する情報を表示します。

interface port-channel

EtherChannel インターフェイスを作成して、インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始するには、**interface port-channel** コマンドを使用します。EtherChannel インターフェイスを削除するには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

```
interface port-channel channel-number[.subintf-channel-no]
```

```
no interface port-channel channel-number[.subintf-channel-no]
```

構文の説明

<i>channel-number</i>	この EtherChannel 論理インターフェイスに割り当てられているチャンネル番号。指定できる範囲は 1 ～ 4096 です。
.	(任意) サブインターフェイスの区切り文字を指定します。 (注) レイヤ 3 インターフェイスが対象となります。
<i>subintf-channel-no</i>	(任意) EtherChannel サブインターフェイスのポート番号。有効な範囲は 1 ～ 4093 です。 (注) レイヤ 3 インターフェイスが対象となります。

コマンド デフォルト

なし

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード
インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
4.0(0)N1(1a)	このコマンドが追加されました。
5.0(3)N1(1)	レイヤ 3 インターフェイスおよびサブインターフェイスのサポートが追加されました。

使用上のガイドライン

ポートは、1 つのチャンネル グループだけに属することができます。

レイヤ 2 インターフェイスに **interface port-channel** コマンドを使用する場合は、次のガイドラインに従ってください。

- CDP を使用する場合は、EtherChannel インターフェイス上ではなく物理インターフェイス上だけで CDP を設定します。
- EtherChannel インターフェイス上にスタティック MAC アドレスを割り当てない場合は、MAC アドレスが自動的に割り当てられます。スタティック MAC アドレスを割り当て、後で削除した場合は、MAC アドレスが自動的に割り当てられます。
- EtherChannel の MAC アドレスは、チャンネル グループに追加される最初の動作ポートのアドレスです。この最初に追加されたポートがチャンネルから削除されると、次に追加された動作ポート（存在する場合）の MAC アドレスになります。

EtherChannel インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスとして設定するためには、**no switchport** コマンドをインターフェイス コンフィギュレーション モードで使用する必要があります。インターフェイスをレイヤ 3 インターフェイスとして設定すると、そのインターフェイスのすべてのレイヤ 2 固有のコンフィギュレーションが削除されます。

レイヤ 3 EtherChannel インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスに変換するには、**switchport** コマンドを使用します。インターフェイスをレイヤ 2 インターフェイスとして設定すると、このインターフェイスのすべてのレイヤ 3 固有のコンフィギュレーションが削除されます。

ルーテッド インターフェイスで構成されるポート チャネルに 1 つまたは複数のサブインターフェイスを設定できます。

例

次に、チャンネル グループ番号 50 を持つ EtherChannel グループ インターフェイスを作成する例を示します。

```
switch(config)# interface port-channel 50
switch(config-if)#
```

次に、チャンネル グループ番号 10 のレイヤ 3 EtherChannel グループ インターフェイスを作成する例を示します。

```
switch(config)# interface port-channel 10
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip address 192.0.2.1/24
switch(config-if)#
```

次に、インターフェイス コンフィギュレーション モードでチャンネル グループ番号 1 のレイヤ 3 EtherChannel サブインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface port-channel 10
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# interface port-channel 10.1
switch(config-subif)# ip address 192.0.2.2/24
switch(config-subif)#
```

次に、グローバル コンフィギュレーション モードでチャンネル グループ番号 20.1 のレイヤ 3 EtherChannel サブインターフェイスを設定する例を示します。

```
switch(config)# interface port-channel 20.1
switch(config-subif)# ip address 192.0.2.3/24
switch(config-subif)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
encapsulation	(レイヤ 3 インターフェイス) インターフェイスのカプセル化タイプを設定します。
ip address	(レイヤ 3 インターフェイス) インターフェイスのプライマリまたはセカンダリ IP アドレスを設定します。
no switchport	(レイヤ 3 インターフェイス) レイヤ 3 インターフェイスとしてインターフェイスを設定します。
show interface	インターフェイスに関する設定情報を表示します。
show lacp	LACP 情報を表示します。

コマンド	説明
show port-channel summary	EtherChannel に関する情報を表示します。
vtp (インターフェイス)	インターフェイスの VLAN トランッキング プロトコル (VTP) をイネーブルにします。

ip port-unreachable

ICMP ポート到達不能メッセージの生成をイネーブルにするには、**ip port-unreachable** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip port-unreachable

no ip port-unreachable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

イネーブル

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード
サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、必要に応じて、インターフェイス上で ICMP ポート到達不能メッセージの生成をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip port-unreachable
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip unreachable	ICMP 到達不能メッセージを送信します。

ip proxy-arp

インターフェイス上でプロキシ ARP をイネーブルにするには、**ip proxy-arp** コマンドを使用します。インターフェイス上でプロキシ ARP をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip proxy-arp

no ip proxy-arp

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード
サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、プロキシ ARP をイネーブルにする例を示します。

```
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip proxy-arp
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
copy running-config startup-config	コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーション ファイルに保存します。
show ip arp	ARP 設定情報を表示します。

ip tcp path-mtu-discovery

IPv4 インターフェイス上のパス最大伝送ユニット (MTU) ディスカバリをイネーブルにするには、**ip tcp path-mtu discovery** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip tcp path-mtu discovery

no ip tcp path-mtu discovery

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

ディセーブル

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、IPv4 に対してパス MTU ディスカバリをイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip tcp path-mtu-discovery
switch(config-if)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show ip arp	ARP 設定情報を表示します。

ip tcp synwait-time

Cisco NX-OS ソフトウェアが TCP 接続の確立を試みながら、タイムアウトになるまで待機する時間を設定するには、**ip tcp synwait-time** コマンドを使用します。デフォルトの時間に戻すには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip tcp synwait-time seconds

no ip tcp synwait-time

構文の説明

seconds TCP 接続の確立を試みながら待機する時間（秒数）。5 ～ 300 秒までの整数を指定できます。

コマンド デフォルト

5 秒

コマンド モード

グローバル コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.1(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

使用上のガイドライン

このコマンドには、ライセンスは必要ありません。

例

次に、10 秒間 TCP 接続の確立を試み続けるようにスイッチ ソフトウェアを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip tcp synwait-time 10
Setting syn time to 10 seconds
switch(config)#
```

次に、インターフェイス上で TCP の同期をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no ip tcp synwait-time
switch(config)#
```

関連コマンド

コマンド	説明
show running-config	実行システム コンフィギュレーション情報を表示します。

ip unreachable

ICMP 到達不能メッセージの生成をイネーブルにするには、**ip unreachable** コマンドを使用します。この機能をディセーブルにするには、このコマンドの **no** 形式を使用します。

ip unreachable

no ip unreachable

構文の説明

このコマンドには、引数またはキーワードはありません。

コマンドデフォルト

イネーブル

コマンドモード

インターフェイス コンフィギュレーション モード
サブインターフェイス コンフィギュレーション モード

コマンド履歴

リリース	変更内容
5.0(3)N1(1)	このコマンドが追加されました。

例

次に、インターフェイス上で ICMP 到達不能メッセージの生成をイネーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface ethernet 2/1
switch(config-if)# no switchport
switch(config-if)# ip unreachable
```

関連コマンド

コマンド	説明
ip port-unreachable	ICMP ポート到達不能メッセージを送信します。

